

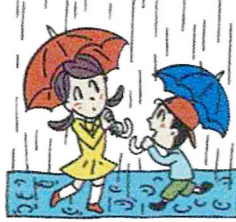
## 雨の強さと降り方(1時間降雨量)

やや強い雨  
(10～20ミリ未満)



- ・ザーザーと降る
- ・地面からの跳ね返りで足元がぬれる
- ・雨の音で話し声がよく聞き取れない
- ・長く降り続けるときは注意が必要

強い雨  
(20～30ミリ未満)



- ・どしゃ降り
- ・車のワイパーを早くしても見えづらい
- ・側溝や下水、小さな川が溢れ小規模な崩れが始まる

激しい雨  
(30～50ミリ未満)



- ・バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる
- ・高速走行時にブレーキが利かなくなる
- ・山崩れやがけ崩れが起きやすくなる

非常に激しい雨  
(50～80ミリ未満)



- ・車の運転は危険
- ・土石流が起りやすい。多くの災害が発生する

### 猛烈な雨 (80ミリ～)

- ・息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる

## 土砂災害の種類と前兆

### ◆がけ崩れ

#### (前兆)

地中にしみ込んだ雨などの影響で、斜面が急激に崩れ落ちる

- ・がけにひび割れが入る
- ・がけの木が倒れる
- ・がけから小石が落ちる

### ◆土石流

#### (前兆)

大量の土砂が水とともに流れ出し、建物や道路を押し流す

- ・雨が続くのに、川の水位が急に下がる
- ・急に川の水が濁り、流木が混ざりだす など

### ◆地すべり

#### (前兆)

地下水の影響と重力で、広い範囲で斜面がゆっくり滑り落ちる

- ・斜面や地面にひび割れができる
- ・池や沢の水が濁る など

## 大雨時の気象警報・情報

### ◆大雨警報

大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予測される場合の警報です。

### ◆記録的短時間大雨情報

数年に一度しか発生しないような短時間の大雨を観測したときに、気象台が発表する情報です。

### ◆土砂災害警戒情報

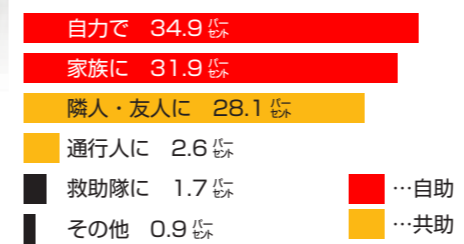
大雨警報が発表され、命に危険を及ぼす土砂災害が発生してもおかしくない状況のときに、市の避難勧告や住民の自主避難を支援するために地域を特定して警戒を呼びかける情報です。県と気象台が共同で発表します。

特集／自分や家族、地域を守るために

# 風水害への備え

昨年は、宮崎県内を豪雨が襲い多くの被害がでました。比較的被害の少ない小林市ですが、その油断が大きな被害につながることも。普段の備えや事前の準備を行い、被害を最小減に抑えるようにしましょう。

表1 阪神淡路大震災のときの救出方法の割合  
(日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する報告書」より)



「自助」や「共助」で災害から身を守る

私たちにいまできること

災害に備えて個人や地域での連携を図る

災害が発生したときは、市や消防・自衛隊などの防災機関が全力で対応します。しかし、交通網の分断などで十分な対応ができない場合があります。その際は、自分たちで自らの身の安全を守り、地域の人々と協力して被害にあった人々を救助・救援することも。実際に、阪神淡路大震災では、「自分で」や「家族に」といった自助、「隣人・友人に」といった共助が大きな役割を果たしました。

個人や家族(自助)では、災害情報の確認方法や非常持出品の準備、地域(共助)では、日ごろから防災訓練に参加し地域内でのコミュニケーションを図るなど、家族や地域で協力し合える体制を確認しましょう。

雨や風などの自然状況は、急激に変化する場合があります。まだまだ大丈夫と思っても、危険が迫ってからは手遅れになることもあります。ひとりひとりが風水害への備えを十分確認して、被害を最小限に抑えるよう心掛けましょう。

ひとりひとりが意識し災害への備えを十分に

友人に」や「通行人に」といった共助で救出された人は全体の95%以上という結果もあります(表1参照)。まずは個人、地域の連携が大切です。

# 風水害への備え

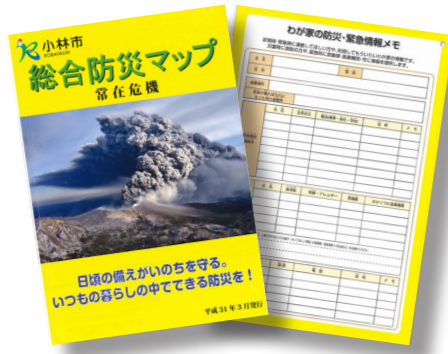


防災対策方法や災害発生の仕組みなども掲載している防災マップ。日ごろから見やすい場所に置くなどして、常に確認できるようにしましょう

市では、毎日の安全安心な市民生活に関する情報を掲載した「小林市総合防災マップ」を作成しました。防災への対策やチェック項目、災害が発生したときの避難方法、また、各地域の

避難場所などをイラストなどでわかりやすくまとめています。市内には現在、土砂災害の危険性がある地域が少なくありません。梅雨時期やゲリラ豪雨などにより大雨

最新の「小林市総合防災マップ」を作成しました  
自分の住んでいる地域の状況などを事前に確認しましょう



が続く場合は、地盤が緩み「がけ崩れ」・「土石流」・「地すべり」などの土砂災害が発生しやすくなります。マップには、「土石流（特別警戒区域）」を桃色で、「急傾斜地（特別警戒区域）」を橙色で表示しているの

## INTERVIEW

### 危機管理課長に話を聴きました

危機管理課  
まつもと きみたか  
松元 公孝 課長



「常在危機」の心で被害を最小限に  
九州北部豪雨、西日本豪雨など50年に1度と言われるような大雨災害が毎年のように発生しています。災害はいつでも起こるかわかりません。大雨など災害が発生しやすい状況では、気象情報などの情報収集が重要になります。そのため市では、市内全域に防災行政無線を整備し、全戸への防災ラジオ無償貸与を実施します。これにより、市からの災害情報などを正確・迅速に皆さんへ伝えることができるようになります。

大雨時には、土砂災害にも注意が必要です。大雨警報発表時に、土砂災害の危険性が高まったときは、土砂災害警戒情報が発表されます。その場合は、対象地域に避難勧告を発令しますので、土砂災害の危険性が高い地域に住んでいる人や自宅での滞在に不安がある人などは、直ちに避難をお願いします。  
今年度中に市内全域で自主防災組織の設置が完了します。風水害に備えた防災訓練や研修会などの実施で、防災意識を高めて被害が最小限になるよう今後もご協力よろしくお願ひします。

表2 避難に関する情報と警戒レベル

警戒レベル	避難情報	住民が取るべき行動	基準になる気象情報など
警戒レベル5	災害発生情報	命を守る最善の行動	大雨特別警報 河川氾濫発生情報
警戒レベル4	避難勧告 避難指示(緊急)	全員避難(対象地域)	土砂災害警戒情報 河川氾濫危険情報
警戒レベル3	避難準備・高齢者等 避難開始	高齢者などは避難 他の人は避難準備	大雨警報、洪水警報 河川氾濫警戒情報
警戒レベル2		災害に備え避難行動の確認	大雨注意報、洪水注意報
警戒レベル1		災害への心構えを高める	警報級の可能性など

### 災害情報の取得方法

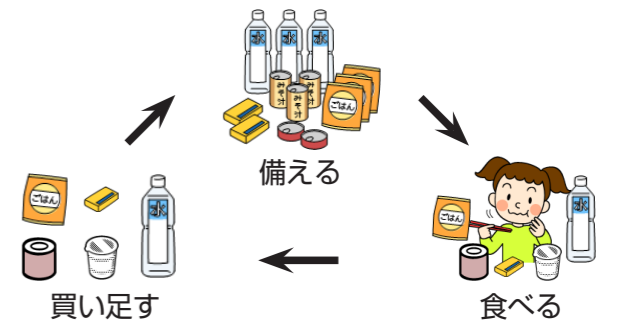


災害や避難の情報は、テレビ・ラジオ・インターネットなどで正確な情報を取得できます。また、市では防災メールでも災害の発生状況や避難情報などを発信しています。登録は、右のQRコードからアクセスください。



### 非常用の食料はローリングストック法で

非常用の食料は、賞味期限に注意。ローリングストック法を活用して定期的な確認を行いましょう。  
◆ローリングストック法  
賞味期限が切れる前に食べて、食べた分を買い足して備蓄する方法。



避難情報を確実に取得して早めの行動を

市では、さまざまな災害の危険が迫っているとき、その状況に応じて「警戒レベル」を用いて避難情報が発令されます(表2参照)。警戒レベルは、住民がとるべき行動を発生状況別に5段階で区分。テレビやラジオなどから最新の気象情報入手して、自分の置かれた状況により早めに避難行動を起こしましょう。

また、災害は数日間に渡り発生することもあります。自分やその家族などの非常食を備蓄する際は、ローリングストック法を活用しましょう。非常食を定期的に食べて、食べた分を新たに買い足す。食べながらから備蓄するため、賞味期限が短い食品なども非常食として扱えます。  
災害発生時やその予兆があるときには速やかに身を守る行動を取れるよう、日ごろから準備を行っておくことが大切です。